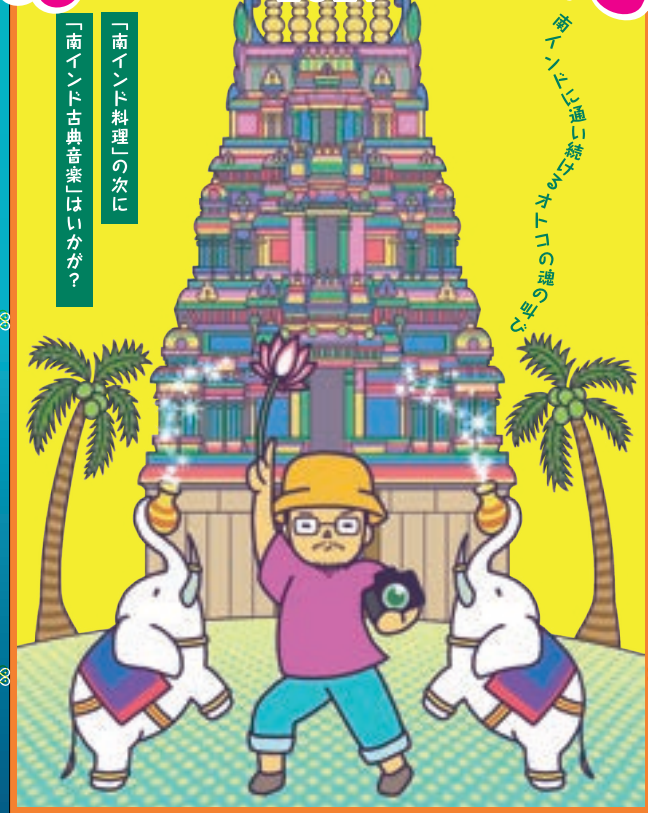


カルナータカ音楽宣言 2021

「南インド料理」の次に「南インド古典音楽」はいかが？

南インドの神聖な音楽



まちかど倶楽部・マールガリ ジャパン

Gateway to Carnatic Music

いざ！ カルナータカ音楽の 豊潤なる世界へ！

2021年に招聘予定の南インド古典音楽(カルナータカ音楽)の音楽家アビシェーク・ラグラム。年齢30代半ばにして現在のカルナータカ音楽の中心地である南インド、タミルナドゥ州の州都チェンナイでは天才との呼び声高く、音楽ファンやオーガナイザー、ミュージシャンからも高く評価されている。彼の特徴は爆発的な即興能力と抜群のリズム感(曲の前にソロでラーガを披露する「アーラーバナ」、曲中の歌詞の一節を抜き出して即興をする「ニラヴァル」、音階名で即興をする「カルパナスワラ」では圧倒的なまでのキレでラーガの世界を描き切る。また、ムリダンガムやカンジューラを習っていたので、南インドのリズムに精通した鋭く正確なリズム感を持ち、イメージネーションあふれるアプローチで、時に共演者も舌を巻くほどのプレイで魅せる。綺麗な星の如く新しい才能が現れるカルナータカ音楽シーンをこの先何十年と引っ張って行く存在だ。肝心の招聘は新型コロナウイルスの収束次第でもあるけど、既に気に用いている音楽ファンに向け、そして日本公演準備資金捻出のため、公演での物販用に用意していた彼の作品を事前に開放販売！

ここでは紹介し切れなかった他の音楽家やヴィナーやフランクフル(竹笛)などの楽器、「Remember Shakti」にも参加のエレキ・マンドリン奏者シュリニヴァースや「天上のリズム」公演で来日したガタム奏者ヴィクック・ヴィナーヤクラムのCD、その他関連書籍も取り揃えています。



チェンナイでCDを撮るあきらら

☆CDのお求めは…まちかど倶楽部 / Margazhi Japan → <http://akiraio.com>



南インドのトリコになって20年。 カルナータカ音楽を全力で紹介したいその理由。

初めてチェンナイに行ってカルナータカ音楽(南インド古典音楽)のコンサートを観たのは2001年の年末。至福の体験でもあったその衝撃に突き動かされ、「南インド巡礼」の日々が始まり、ついにはチェンナイに二年半の間、実際に住んでカルナータカ音楽とそれを取り巻く音楽シーン、そしてその音楽シーンを支え、育む現地の人々やその文化を撮影し、魅了された。音楽家や音楽ファン、そしてサバーと呼ばれる音楽団体の人々には、実にいろいろな事を教えてもらい、日本に居を戻してからも、交流は続いている。そんなインドへの恩返しの意味も込めて、これからより積極的にインドの文化を日本に紹介しようと、アクションを起こした矢先のコロナ禍。実際に自分も感染し、収束の見通しもまだ不明だが、それにもめげずに気概を込めて「カルナーティック宣言 2021」なのです！

あきららジのインド芸能紹介展

2011 「シュルティ」編集長V.Ramnarayan, 現地の音楽ライターとともに「Carnatic Music - A Classical Art」をインドで出版。

2012〜 カルナータカ音楽をたっぷり濃密に紹介するトークイベント「The カルナーティック・トーク」は番外編やミニアルバムを含めると15回を数える。テーマは、チェンナイ・ミュージックシーズンの紹介やラーガ、タラ、楽器製作など、これからは紹介していくぞ！

2016 グラミー賞受賞者であるガタム奏者ヴィクック・ヴィナーヤクラムを中心とした打楽器アンサンブルを南インドより招聘した「天上のリズム」公演。

2018 インド東部の西ベンガル州の吟遊詩人とも評されるパウル。現代における代表的パウルの人一人パヴァティ・パウルを招聘した「パウルの響き」公演。

2019 インド北西部ラージャスターン州の音楽を産業とする楽士のグループ「Jaisalmer Beats」を招聘した「ラージャスターンの風」北インド古典音楽のパーンスリーとよばれる竹笛奏者ラーケシュ・チョウラシアを招聘した「インドの竹笛、天空のしらべ」公演。

…そして、2021は？



井生 明

(いおう あきら)

フォトグラファー/ライター
イベントオーガナイザー
「まちかど倶楽部」、
「マールガリ・ジャパン」主宰。

1971年北九州市生まれ。大学在学中より旅を始め、写真を撮るようになる。1997年イラク国際写真展にて「Award of Merit」受賞。現在は南インドの古典音楽・舞踊・儀礼などをメインテーマに、インド全般、東南アジアの芸能、インド外のタミル人コミュニティの様子などを幅広く撮影する。著書に「ひよっこダンサー、はじめの一步」、共著に「南インドカルチャー見聞録」。その他「旅行人」、「Transit」、「Saunter Magazine」などにインドの芸能などに関する記事を寄稿。「地球の歩き方 インド」編でも取材を行うほか、タブラ奏者U-zhaanのヒット本「ムンバイなう」、「ムンバイなう2」にも写真を多数提供する。その他イベントオーガナイザーとして「まちかど倶楽部」名義で、インド文化を紹介するイベントを数多く企画・主催。二年半に及ぶインド滞在から帰国後も積極的にインド文化(音楽・舞踊・儀礼)を紹介するトークイベントなどを多数開催、ユーモアあふれる軽妙な語り口で好評を得ている。

「南インドカルチャー見聞録」

井生明・春奈&マサラワラー 著

南インドのカルチャーガイドの決定版!食や映画、カルナータカ音楽や古典舞踊、さらにはサブカルっぽい事象までを多数の写真で紹介。

「ひよっこダンサー、はじめの一步」

井生明 著

南インドの古典舞踊パラタナティヤムを習い、デビュー公演を迎える12歳の少女ニヴェダを追った、子供から大人まで楽しめる写真絵本。

「サウンターマガジン」vol.3

あきららジが南インドの旅行記を寄稿。最近インドにハマっているコムアイが表紙や巻頭特集!この雑誌の編集長もインド大好き人間だ!

What is カルナータカ音楽宣言 2021?

மார்கழி ஜப்பான்

2020年秋に計画する新型コロナウイルスの流行により2021年秋に延期。

今年こそはどうか実現させたい!!皆さん、是非とも応援してね!

1. カルナータカ音楽を紹介する本の出版

日本初?一冊丸ごとカルナータカ音楽を紹介する本を出版します!

この本を手にも一人でも多くの人に南インドに行ってもらい、

現地で人々と戯れながらカルナータカ音楽を楽しんでもらえたら、本当に嬉しい!

2. マールガリ・ジャパンの設立

南インドからカルナータカ音楽のアーティストを定期的に招聘するプロジェクト始動!

「マールガリ」とはタミル語で12月半ばからの一ヶ月間を指す月の名称で、

チェンナイ・ミュージックシーズンにあやかって。

3. 日本発のカルナータカ音楽の音源制作

南インドのアーティストを招聘する度に日本で録音。

資金はクラウドファンディングで募り、

日本だけでなくインド外に住むNRI(在外インド人)や世界の

ワールドミュージックファンなど全世界に届ける!!



イベント情報や撮影・執筆・トークの依頼はこちら!カルナータカ音楽のCD・DVDや関連書籍なども販売しています!

井生明 オフィシャルHP

<http://akiraio.com>

CREDIT

2021年2月

まちかど倶楽部・マールガリ ジャパン発行

写真・文章:井生明(あきららジ)

デザイン:木村麻理(bmpd)

イラスト:池田純子

アビシェーク・ラグラム&カルナータカ音楽、おすすめディスク12選!

ライブ盤 2枚組

Title
Pallavi Darbar

Abhishek Raghuram (Vocal)
Akkarai Subhalakshmi (Violin)
Anantha R. Krishnan (Mridangam)
PRICE/3,400yen

アビシェーク・ラグラムの2010年のライブ録音二枚組!このライブでは演奏ラーガとタラ、そしてサブビート(一拍をいくつに分割するか)は事前に決められておらず、観客とのやり取りでその場で決定されたが、そのやり取りがまずDisc.1のトラック1に収録されている。なんとDM企画(笑)に当時20代半ばのアビシェークがボーカル・バイオリン・ムリダンガムというシンプルな3ピースでの編成で挑む!カルナータカ音楽の曲形式で一番クリエイティビティが要求される「ラーガム・ターナム・パッラヴィ」を100分にわたって堪能できる名盤!アビシェークが自身でセレクトした歌詞「Shanmukapriyajanani Samaganavinodini」という一節だけで、ラーガ「シャンムカプリヤ Shanmukapriya」の美しく切ない世界をひたすら自由に描いていく。とにかくカッコよくて、とにかくおススメ!まちかど倶楽部でも過去5年以上に亘って強烈にプッシュしてきた作品!ムリダンガム奏者は盟友アーナンタ(アビシェークとアーナンタはともにムリダンガム奏者パルガット・ラギーの孫)で、パーカッションは7分ほど短めだがカッコいいプレイが随所に!

ライブ盤 2枚組

Title
December Season 2011

Abhishek Raghuram (Vocal)
B.U.Gansehrasad (Violin)
Anantha R. Krishnan (Mridangam)
K.V.Gopalakrishnan (Kanjira)
PRICE/3,400yen

2011年12月9日チェンナイ・ミュージックシーズンでのライブ録音二枚組。Disc.1はのっけから南インドの作曲家ティヤガーラーヤの軽快な曲でスタート。細かい音割りでその階名唱法での即興をあふれ出す泉の如く展開。3曲目は17世紀の作曲家ナーラーヤナ・ティールタの曲にアビシェークの師匠P.S.Narayanamsamyがメロディーを付けたもの。Disc.2の2曲目は勇ましく荘厳な雰囲気を持つラーガ「Gambheera Nattai ガンベーラ・ナッタイ」によるラーガム・ターナム・パッラヴィ。ボーカル・バイオリン・ムリダンガムにトカゲ革のタンバリンであるカンジューラの4者が入り乱れてメロディーとリズムの饗宴を繰り広げる。トラック3は、インドの大叙事詩「ラーマヤナ」の主人公であるラーマへの信仰を歌い上げたタミル語の名曲。「Hare Ram Ram Ram, Sita Ram Ram Ram」と歌い上げる一節の何と甘美なことか。同曲のそのままラーガ「シンドゥ・バイラヴィ Sindhubhairavi」へとスイッチして一節歌った後に切れ目なく次の曲「Chandrasekhara」に後れ込む展開がかっこいい!

ライブ盤 2枚組

Title
Kalyanikeeravani

Abhishek Raghuram (Vocal)
Vittal Ramamurthy (Violin)
Anantha R. Krishnan (Mridangam)
PRICE/3,400yen

アビシェーク自身のクラブの音や、ブラボーと同様の言葉「サバッシュ!」を頻発するバイオリン奏者の声もよく聞こえる。臨場感たっぷりな作品。臨場感があり過ぎて鼻をすする音も収録されているのがカルナータカ音楽あるある(笑)Disc.1の1曲目はヴァルナム Varnamと呼ばれる練習曲だが、CDジャケットでは誤表記。CDジャケットでの表記誤。2曲目はカルナータカ音楽の作曲家ティヤガーラーヤの「五つに至宝(珠玉)」の曲のうちの一つ。3曲目は日本人にも馴染みやすい明るい五音階のラーガ「モハナム Mohanam」。冒頭のソロ部分(アーラーバナ)が伸びやかで美しい。5曲目は2019年にジョン・マクラフリンのグループ「シャクティ」に加入したガネーシュ・ラージャゴパランの弟クマレーシュの作曲。Disc.2は丸ごと一曲だけを2パートに分かれて収録。ラーガ「カリヤニ Kalyani」と「キョラヴァニ Keeravani」という色の違う二つのラーガを自在に行ったり来たりしながら展開する一時間を超える大作。アーナンタによるムリダンガムソロも約9分ほどあり存分に楽しめる!

ライブ盤 2枚組

Title
Kailasapthy

Abhishek Raghuram (Vocal)
Mysore V. Srikanth (Violin)
Anantha R. Krishnan (Mridangam)
PRICE/3,400yen

2012年タミル・ナドゥ州チダンバラムのナタラーヤ寺院でのライブ二枚組。Disc.1は明るめの曲が多くカルナータカ音楽に慣れない人にも耳になじみやすい。アビシェークもゆったりと落ち着いて歌い込んでいる。6曲目は明るく気持ちの良いラーガ「ビハーグ」からのメロデー。Disc.2はこの作品のハイライトで丸ごと一曲、70分超にも及ぶラーガム・ターナム・パッラヴィ。「ヒンドラー」という五音階の物憂げだが、独特の甘さも感じられるラーガの世界を繰り広げ、ひたすら歌詞の「Kailasapathe Pashpathe Umapathe」をこねくり回す。メロディーやリズムの仕掛けが多様なので、階名唱法以外はこの歌詞だけで構成されていると気づかないかも?アビシェークのボーカルと盟友アーナンタのムリダンガムは抜群のコンビネーションでキラキラ!ステージ上でのサバッシュの掛け合いもよく聞こえる!

Only for you!

クーポンコード

【カルナーティック宣言】

とオーダー時に書き添えてお申込みください!



2枚組

Title
Live at Music Academy

Semmagudi Srinivasa Iyer
PRICE/3,200yen

名歌手セマングディによるカルナータカ音楽の殿堂「ミュージックアカデミー」での二枚組。あきららジの人生を変えたカンジューラの鬼才ハリヤンカルなど、最高の伴奏者による「これぞカルナータカ音楽!」ともいえるライブ。サポートボーカルを従え、80歳を超えるセマングディの朗々たる歌声も心打つ!

2枚組

Title
Enneramun

T.M.Krishna
PRICE/3,400yen

あきららジコーディネートの「Listen」南インド編にも登場の男性ボーカリストT.M.クリシュナの二枚組。アビシェークがカンジューラ奏者として、祖父のパルガット・ラギー(ムリダンガム)と共に演奏している「アルバムとしての完成度も高い!

4枚組 コンビ

Title
Svanubhoothi

Umayalpuram K.Sivaraman with Legends
PRICE/4,000yen

「ムリダンガムの帝王」と呼ばれる大師所シヴァラーマンの演奏ばかりを集めた四枚組!往年の名ボーカリストや楽器奏者、マンドリン・シュリニヴァースなど様々な組み合わせで聴ける!パーカッション好きだけでなく、カルナータカ音楽入門者としてもおススメ!

2枚組

Title
Carnatic Concert

M.S.Subbulakshmi
PRICE/3,400yen

インドの人間国宝であるM.S.スッパラクシュミの二枚組。不朽の名曲「Viriboni」はじめ、ティヤガーラーヤなどの三楽聖やスワーティ・ティルナルの曲など、南インドのコンサートでよく歌われる曲を多数収録。カルナータカ音楽で馴染みの曲を増やしたい人におススメ!

2枚組

Title
Arunambujam

Aruna Sairam
PRICE/3,200yen

元氣なつらつ南インドの群つ玉母さんであるエネルギーなアルーナ・サイラムのライブ二枚組。バイオリンとムリダンガムは2021年秋にアビシェークと共に来日予定の二人!ライオンによるキラのよいモーション演奏も聴ける!

Title
Sundara

Shashank
PRICE/2,500yen

今秋来日予定のムリダンガム奏者サティ・シュマルが竹笛のシャヤンクと共演し、キラのよいリズムを連発。数回日本にも訪れているシャヤンクも流石の演奏で聞き応えあり!笛が好きな人は是非!

Title
Kanjourney vol.1

Selvagesh Vinayakram
PRICE/2,500yen

2016年「天上のリズム」公演で来日した南インドの超絶パーカッショニスト、セルヴァガネーシュ(U-zhaanのカンジューラの師匠)の4枚組!往年の名ボーカリストや楽器奏者、マンドリン・シュリニヴァースなど様々な組み合わせで聴ける!パーカッション好きだけでなく、カルナータカ音楽入門者としてもおススメ!

【スペシャルクーポン】 CD等お買い上げの方で、ご希望者には2016年「天上のリズム」公演のパンフレット(A4サイズ/32ページ)を無料でプレゼント!

Chapter.1 インドには二つの古典音楽がある!

北インドの古典音楽→ヒンドゥスターニー音楽 (Hindustani Music)
南インドの古典音楽→カルナータカ音楽 (Carnatic Music)
日本のインド音楽ファンの間では、それぞれ「ヒンドゥスターニー」、
「カルナーティック」と略して呼ばれる。

【ヒンドゥスターニー音楽】
●イスラームの支配を受けた北インドの歴史を反映し、元からあったインドの音楽がアラブ・ペルシアの影響を大きく受けて成立したヒンドゥスターニー音楽。悠久のインド!というイメージにぴったりで、宮廷を中心に発展し、きらきらときらびやかであったり、ロマンティックだったり、うっとり陶醉するような感じ。演奏は即興が中心で、シタールやタブラなど倍音成分が多く、長く伸びずロングトーン、アラブやペルシアからの影響を受けた麗麗なリズムが特徴。

【カルナータカ音楽】
●カルナータカ音楽は、ずばり高度に発展したヒンドゥー教の「宗教音楽」!南インドは、北インドに比べると保守的と言われるが、それはすなわち伝統を重んじ信仰に篤いということ。日々の生活の中に常に音楽が存在し、音楽は神に到達する手段の一つであると考えられている。そのため、カルナータカ音楽はそれを歌う(演奏する)側も、そして聴く側も共に精神的に高められていくという。歌詞は全て神や信仰に関するものだ。主にヒンドゥー寺院を中心に発展したため、厳かに神へと捧げる献身性(バクティ)が感じられる。口

Chapter.2 「ラーガ」&「ターラ」南北インド古典音楽の 共通項にしてインド音楽の粹!

音楽の三大要素はメロディーとリズムとハーモニー?
西洋音楽ではそうかもしれないが、インドではハーモニーの概念を
発達させずに、独自のラーガとターラという概念を発展させてきた!

●「ラーガ」はメロディーに関する膨大な体系。1オクターブのなかでどの音階を使うというスケールのな部分だけでなく、邦楽の「こぶし」にも似た音の装飾の方法(ガマカ)なども細かく決められている。インドの音階は「サリガマパダニ」でそれぞれドレミファソシに相当。下から上になる時と上から下に降りる時に使う音が異なるものがあったり、一度上がってまた下がるなどジグザグの動きをするものもある。ラーガの数は数百にも及び、一つひとつの

ラーガには人が一人ひとり異なる個性を持つように、それぞれ独自のモード・美しさやメロディー的な特徴があり、固有の名前がつけられているのもインドらしい!
●「ターラ」はリズムに関する体系で、基本となる8拍子や16拍子だけでなく、5拍子や7拍子といった日本人にはあまりなじみのない拍子もある。曲ごとに定められたリズムサイクルの中で、ムリダンガム奏者をはじめとする打楽器奏者たちが、いかに歌を引き立て、いかに美しくリズムを分割するか?

そこを集中して楽しみたい。またコンサートのメインの曲が終わるとタニ・アーヴェルタナムと呼ばれるパーカッションソロがあり、これもコンサートのハイライトの一つとなる。
●ボーカリスト(その他、主奏者)は常に各拍子に特有の手の打ち方をすることによって、バイオリン奏者やムリダンガム奏者などと一緒に演奏する人だけでなく観客にもターラの「現在地」を視覚化して伝える。演奏者・観客も含めたコンサートの場にいる全ての人と共有出来るようになっており、時にステージと客席から手を打つ「バシッ」という音が響き渡るのもカルナータカ音楽の特徴。

カルナーティックは祈りが込められた歌に注目!



左から マンドリン奏者シュリニヴァース、
ガタム奏者ヴィック・ヴィナーヤクラム、ジョン・マクラフリン

INDIA

New Delhi ★

なるほど! The カルナータカ音楽入門

【ざっくり南北インド古典音楽分布図】



なるほど!
The
カルナーティック豆知識!
ビートルズが自分たちの音楽に取り入れたのは北インドのヒンドゥスターニー音楽。マイルス・ディヴィスとも共演していたジャズ・ギタリストのジョン・マクラフリンが大きく影響を受けたのはカルナータカ音楽!2016年「天上のリズム」公演で来日したガタム奏者ヴィック・ヴィナーヤクラムや息子のカンジラ奏者セルヴァグネーシュも「Shakti」、「Remember Shakti」でジョン・マクラフリンと一緒にプレイしている!

なるほど!
The
カルナーティック豆知識!
カルナータカ音楽は主にタミル・ナドゥ州、カルナータカ州、ケララ州、アーンドラ・プラデーシュ州、テランガーナ州といった、南インド全域、そして北インドの大都市デリー、ムンバイ、コルカタでも南インドのサバーがあってコンサートを開催している。ヒンドゥスターニー音楽は、主に上記以外の州で歌われ愛され、楽しまれている。

なるほど!
The
カルナーティック豆知識!
カルナータカ音楽のコンサートでは、主に作曲された曲に、任意の即興部分が付け加えられる。曲自体は3分程度でも即興を前後に入れることによって、1時間を超える大曲になることもある。当然、同じ曲でもアーティストが違えば曲の雰囲気は異なるため、西洋古典音楽やジャズなどのよう同曲異演をマニアックに楽しむ事ができる。まずはお気に入りのアーティストや曲、ラーガなどを見つけて、そこから興味を広げていくのがオススメ!



もっと詳しく知りたい人は、
ワシが執筆予定の
カルナータカ音楽紹介本を
お楽しみにー!

なるほど!
The
カルナーティック豆知識!
カルナータカ音楽のコンサートで客席を見渡すと、頭ゆらゆら、手はひらひら、一緒に口ずさんだりと、客席が何だか賑やか。格式のある古典音楽ではあるが、「インドな」楽しみ方で見られているのだ!かっこいいプレイが出る、「サバーシュ」(ブラボーの意味)などと、即座に声を上げて反応している。さらには、ラーガを当てたり、誰の曲か?など、ステージでの熱いプレイと並行して客席でも音楽通たちが盛り上がりを見せるのだ。コンサートに行ったら、現地の音楽ファンと仲良くなって色々情報も教えてもらおう!

Chapter.3 チェンナイ・ミュージックシーズン

世界一の音楽祭と言っても過言ではない!?あきらジー命名の「都市型フジロック」とも言えるカルナータカ音楽の祭典を是非とも体感しよう!

タミル・ナドゥ州の州都チェンナイを舞台に毎年開催されるカルナータカ音楽の祭典!もとはタミル暦で12月半ばに始まる「マールガリ月」を中心に開催されていたが、近年ではさらに前後に時期を広げ盛り上がっている。数十にも及ぶサバーと呼ばれる音楽団体が各自の音楽祭(短いものは1日、長いものは1ヶ月以上!)を独自かつ同時に開催。その結果、一番盛り上がる時期には、一日に朝から晩まで100本以上のコンサートが行われ、新聞の芸能欄1ページ丸ごとコンサート情報で埋まるという音楽好きにはたまらないクレイジーかつ至福の体験ができる!現地の音楽ファンは、ごぞつてコンサートをハシゴし、仲間で「あのサバーでの誰々のコンサートが良かった!」、「今年はこういう若手が伸びてきている!」など熱く情報を交換している。カルナータカ音楽が気になる人は、コロナが収まったら、是非ともチェンナイを訪れて欲しい!



観客と一緒に作りあげる生のコンサートを体感してほしい!!

Chapter.4 マールガリ・ジャパン2021 招聘予定アーティスト

マールガリ・ジャパンによる記念すべき初招聘公演は
全員が海外公演経験も豊富なトップアーティスト!



ラーガ&ターラの
超絶二刀流!
アビシエーク・ラグラーム
「ボーカー」

名ムリダンガム奏者バルガット・ラガーを祖父、名バイオリン奏者ラールグディ・ジャヤラーマンを大祖父にもつ音楽一家に生まれる。幼少の頃から祖父にムリダンガムを習い6歳で初舞台、コンテストで優勝するなど才能を発揮。のちにボーカリストへと転向し、正確なリズムを伴ったキレのあるフレーズや「ラーガ」の世界をどこまでも深く潜っていくスタイルでカルナータカ音楽の聖地チェンナイで絶賛されている。メロディーもリズムもどちらも一級品という、いわば大谷翔平のような二刀流で「ラーガ」と「ターラ」の世界を探究。インドにおけるアビシエークに対する他のアーティストの賛辞は、藤井聡太へのそれとそっくりだと最近発見した「にわか観る将」のあきらジーなのであった。

H.N.バースカル 【バイオリン】

パトリ・ サティーシュクマール 【ムリダンガム】

バイオリン奏者であった母親から手ほどきを受け幼少の頃よりムリダンガムを始める。インドで引っ張りだこのムリダンガム奏者。柔軟な伴奏とリズムセンスで、男女のボーカル、ヴィナーやマンドリンなどの器楽などあらゆる主奏者に対応できるぎつてのオールラウンダー。Zakir Hussain(ザークル・フセイン)など北インド古典音楽の演奏家との共演も多く、2020年にはムリダンガムのリズムを紹介する本を上梓、自身がデザインしたパトリモデルのムリダンガムを販売するなど従来のムリダンガム奏者の枠にとらわれない活動を行うムリダンガム新世代のトップランナー。

注目!カルナータカ音楽の楽器たち

<p>ヴィナー 南インドを代表する弦楽器。演奏者ではないが深い音が特徴。サラスワティ女神も持っている。</p>	<p>チトラヴィナー ヴィナーを床に置いてパーをスライドさせて音程をとる。南インドでは唯一、共鳴弦を持つ楽器。</p>	<p>バイオリン 18世紀ごろインドに入ってきた新参者の楽器だが、今やカルナータカ音楽には欠かせない重要な楽器。</p>	<p>フランクフル 竹笛。指穴は8つある。北インドの同様の楽器よりも音が高く、祭囃子のような。</p>	<p>タンブーラ ボーカリストに基準となる音を提示する楽器。これが鳴るだけでインドな気分がアップ!</p>	<p>ジャラタランガム 異なるサイズの茶碗やどんぶりに入れて叩く。バチで叩いて演奏する楽器。涼しげな音が意外と良い!</p>	<p>サクソ 西洋の楽器であるが、やっていく内容がカルナータカ音楽であればOK!カルナータカ音楽は懐が深いのだ!</p>	<p>エレキ・マンドリン 小さくても立派にカルナータカ音楽の演奏ができる!写真も「Remember Shakti」にも参加したシュリニヴァース。</p>	<p>エレキ・ギター エフェクターを使ったり、チューニングしたり、意外とカルナータカ音楽にマッチする。</p>	<p>ハーモニカ もはや何でもありなのか?ハーモニカで演奏するカルナータカ音楽はちょっとリシェール。</p>	<p>ムリダンガム カルナータカ音楽には必須の太鼓ムリダンガム。豊かな表現力を持つ多彩な音色が素晴らしい!</p>	<p>カンジラ トカゲ革のタンバリン。小さいが非常に大きな音が出る。水で革を濡らしてテンションを落とすと低音も出せる。</p>	<p>ガタム 演奏用に作られた素焼きの壺。スゲの長い音が出せる。口の部分を手で覆うように叩けば、低音が出る。</p>	<p>モールシン 鉄の口琴。カルナータカ音楽の複雑なリズムを刻みパーカッションとして使われる。</p>	<p>ナーダスワラム 儀礼の際に使われる大きなチャメラ。コンサートで演奏されることもある。</p>	<p>タヴィル ナーダスワラムとのセットで儀礼で演奏される寸胴の両面太鼓。破壊力抜群の音!</p>
--	--	---	--	--	---	---	---	--	---	--	--	---	--	--	--